

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 坪井明彦	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 (1) ゼミ活動：正規の授業以外に PBL (Project Based Learning) に注力した。 ① 渋川市中心市街地活性化のための調査 2008 年から渋川市から受託しているプロジェクトであり、本年度は、①中心市街地通行量調査、②「まちなかの賑わい創出」につながる新たな事業の実践を行った。②に関しては、10 月に歩行者天国イベントに参加し、ビンゴゲームのほか、スライムやビーズなどの子供向けのおもちゃ作り体験を行った。12 月には渋川市中心市街地まちづくりサポーターとともに、クリスマスのイルミネーションイベントとして宝探しゲームと仮装コンテストを企画し、実施した。 (『平成 28 年度渋川市中心市街地活性化のための調査報告書』(平成 29 年 3 月) 参照)。 (2) 研究活動： ① 「地方都市商店街の活性化に関する考察」『地域政策研究』高崎経済大学地域政策学会第 19 巻第 3 号 2017 年 2 月、79 頁～92 頁。 ② 『新版 ビジネス実務総論』(水原道子・大島武編著、樹村房、2017 年 3 月)において、第 2 部第 3 章「地域連携とボランティア」を執筆。	
2 その他の事項 (1) 日本ビジネス実務学会における活動 日本ビジネス実務学会総務・企画委員長(副会長)として、日本ビジネス実務学会の運営に尽力した。 (2) 日本地域政策学会における活動 事務局長(理事)として、学会運営のために尽力した。 (3) 地域活性学会における活動 編集委員(理事)として、学会誌『地域活性研究』の発行や全国大会運営のために尽力した。 (4) 日本経営診断学会における活動 理事として、学会運営のために尽力した。 (5) 地域づくり学科長 地域づくり学科長として、「地域づくりを学ぶ」の運営など学部運営のために尽力した。 (6) 実習運営委員長としての活動 実習運営委員長として、高崎市インターンシップの運営のために尽力した。	
3 次年度以降の計画・抱負 2017 年度においても引き続き、ゼミ活動を通じた PBL に取り組むことと地域活性化に貢献するような教育・研究に取り組んでいきたい。「渋川市中心市街地活性化のための調査」においては、「渋川市中心市街地商店街のあり方」について、市民や商店主の意見、現状を調査し、他の商店街の状況を踏まえた「今後の現実的な商店街のあり方」を提言したい。本年度の論文「地方都市商店街の活性化に関する考察」において、渋川市ではなく一般的な地方の中小都市の商店街の現状や衰退要因を考察してい	

る。そうした点も踏まえて、現実的な商店街のあり方を学生とともに提言したい。そして、そのような取り組みを通じて学生の能力向上に取り組んでいきたい。

また、学部運営、学会運営についても、引き続き責任を果たすべく尽力したい。